

カトリック 仙台教区報

2009年9月6日 No.189
発行
カトリック仙台司教区
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378
発行責任 広報委員会
URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

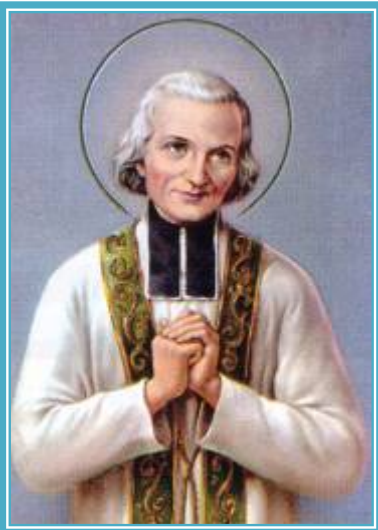
司祭の保護者聖ビアンネと司祭年

司祭 板垣 勤

教皇ベネディクト16世は、全世界の主任司祭の守護聖人ヨハネ・マリア・ビアンネの没後150周年を記念し、全司祭が心の刷新への努力を深めることを目的に、6月19日から来年6月19日までを「司祭年」と宣言しました。

聖ビアンネにはさまざまなエピソードがあり、それらは人々の靈魂の救いのために、生涯をささげ尽くした聖人の姿が生々生きと現われています。

聖ビアンネは、アルス村の一人の老農夫が、鋤を聖堂の入口に置いたままで祈りに夢中になり聖堂で一日を過ごしてしまつたことについて、「彼は神を見、神は彼を見ておいでになった。子供たちよ、宗教はこの一言に尽きています」といつも村人に教えました。



この農夫はいつの間にか聖人の感化を受け、旧約のトビアを思わせる人になったのでした(『聖ビアンネ』P 85〜86 参照・中央出版社)。

聖ビアンネはこの世の価値観にとらわれない神の僕として、神の慈しみと栄光をあらわす器とされた人です。彼にも人間的には欠けるところがありました。しか

し、彼も多くの預言者、聖人のように神によって導かれて、聖性の道を歩みました。

彼は人々の救いのため、信仰と愛の心をもって神の愛を証し、個々の内面に深く入り込むことを厭いませんでした。そのため彼は、徹夜の祈りと断食によって肉体を抑制し、人々にゆるしの秘

跡を授けるため一日16時間も告白場にいることになり、その結果アルス村は「靈魂のための大病院」と呼ばれるようになりました。

神は、どの時代にも、人々の救いのために、さまざまな人を選んで世に遣わしてきました。

人間世界をありのままに見ると、神が創造したものには程遠いものとなっていることを私たちが認めることができます。この世

生命の泉

東北各地の夏祭りが終わり、高校野球の騒がしさが消えるのと、待っていたかのように秋風が吹く▼夏祭りといえば、街角に立つて聖句とやらを掲げてスピーカーでがなり立てるのはなんとかならないものかいつも思う。「人は神に逆らって生活していません。それをご覧になった神は深く憐れまれました。」などと呼ばれるのですからたまりません▼アレオパゴスの丘でパウロが説教なされた所に、石に記念の銅板がはめ込まれて建っているが、アテネの市民もお祭りを楽しみに出てきた人たちだったのであるか▼お祭りに出てきた人の流れは、別に嫌な顔をすることもなく通り過ぎていく。情報化時代に生きていく私たちは必要なこと以外は全く耳に入らないか平然と聞き流す術を持っているのか。聞いて苛立つようでは今の時代に合わないのか。誰にもじっくり付き合ってもらえないからと、短い言葉で訴えようと街角に小さな看板がある。「死後裁かれる聖書」、「神は見ておられる聖書」など。これが福音なのかと腹立たしい思いがする。看板を見た人は「イエス様は私たちに脅しに来たのだ」と思うだろう。キリスト教はこんな教えなのかと思わないだろうか▼日常生活において私たちは多かれ少なかれ、こんな理解の仕方では情報処理しているのではないだろうか。(守)

すべての人の人権を大切に

社会司教委員会第2回人権シンポジウム

表題の人権を啓発するシンポジウムが、7月11日(土)、元寺小路教会で開催され、220人余りが参加した。

同委員会委員長の高見三明大司教(長崎教区)の開会のあいさつに続き、シンポジウムの導入に「世界人権宣言」と司教団メッセーの説明があり、松浦悟郎補佐司教(大阪教区)の司会で進行された。

シンポジストは、3人の司教で初めに難民移住移動者委員長谷大ニ司教(さいたま教区)が



「今、出エジプト記を読み直す―移住労働者の視点から―のテーマで話した。日雇労働者の現実を見るとエジプトの民の姿と二重写しになる。十戒は抑圧のピラミッドシステムから解放するものである。イエスは十戒を完成するために来た。教会は力の支配の原因究明と対策をたてる

ことができる。カリタス・ジャパン責任司教の菊地功司教(新潟教区)は、「貧困と援助」のテーマで、新しい国々は貧しさから抜け出せない悪循環に入っていると話した。カリタス・ジャパンでは、貧しさから抜け出せない悪循環に入っている人々が、そこから抜け出せるように支援している。国連のミレニアム宣言の達成に教会も力を合わせるよう促した。

部落差別人権委員長の平賀徹夫司教(仙台教区)は、「いわれのない差別―ハンセン病問題を中心に―」のテーマで話した。差別

別は、ゆがめられたカテゴリーを無批判に受容することでおこる。「いわれ」は差別する側がつくるものである。宗教界は慰問教化により、誤ったハンセン病強制隔離政策を結果的に延命させてしまったことをハンセン病問題から学んだ。7月9日に衆議院は、ハンセン病問題基本法を踏まえ、療養所の介護体制を充実する決議を採択したことを報告し、これからも関わりを続けることを勧めた。

シンポジウムは、福音的命のため、示唆に富むものであり、信仰者として社会問題にもっと関心を持つ必要性があることを感じさせてくれた。

仙台教区人権委員会(Sr.熊谷 久子)が企画され、参加者を募っています。

「仙台教区大会の開催をめざす」

司教 マルチノ平賀徹夫



昼と夜の長さがほぼ同じになる一年のうちの二日、分の日と秋分の日、仙台教区では宣教司牧評議会の定例会議が開かれてきました。この9月23日には秋の定例会議が開かれる定で、その開催通知は評議員にはもちろんのこと、参考として各小教区教会と各修道院にも届けられています。皆さんお目を通されたでしょうか。

今秋の定例会議では「仙台教区大会について」という重大な案件が取り上げられます。「2011年の開催」を考え、それに向けて準備を始めよう、という提案です。前回の仙台教区大会は、1986年、「仙台教区」50周年のときでした。2011年は「仙台教区」という名となって75年、その前の「館教区」設立の時(1891年)から数えると120年目となる年です。

「わたしたちは神の民、その牧場の群れ」と礼聖歌で歌います。父である神をたたえて歩むようと、キリストを通して、聖霊の力強い働きによって呼び集められた教会、青森・岩手・宮城・福島4県の仙台教区というわたしたちが「一つの神の民である」ことを喜び合いたい。そして、教区のこれまでの歩みを神さまに感謝し、これからの歩みへの神さまの恵みと導きに信と望を置いて、光の子らとして、共にあらためて愛のうちに歩むことを確認し合える大きなにしたいと、わたくしは望んでいます。

体的な企画はこれから教区全体で知恵・アイデアを出し合ってめていくこととなります。み国が来ますようと信仰の目を持って現実を見つめなおしながら、同じ信仰によって一つに結ばれている共同体としてますます成長していけるように、今からお一人お一人が祈りのうちに参加していただきたいと願っています。

司教日程

9・10月

- 9・1 ④ 仙台教区司祭集会・司祭評議員会
- 2 ④ 部落差別人権委・定例会
- 3 ④ 社会司教委員会
- 4 ⑤ 6 日本カトリック教員会(仙台)
- 7 ④ 人権を考える委員会
- 8 ④ 司祭評議会・司祭団役員会
- 12 ④ 部落差別人権委シンポジウム(京都)
- 16 ④ 使徒職協力者教区集会
- 19 ④ 宣教司牧評議会役員会
- 21 ④ 仙台社年の会黙想会
- 23 ④ 宣教司牧評議会
- 24 ④ 学校法人理事會
- 27 ④ カトリック福島県大会
- 28 ⑤ 10・3 教区司祭団年の黙想会
- 10 ④ ④ 気仙沼教会堅信式
- 6 ④ 部落差別人権委・事務局会議
- 9 ④ 特別臨時司教総会予備日
- 10 ⑤ 12 正平協全国集会
- 18 ④ 野田町教会堅信式
- 19 ④ ケベック外国宣教会司祭集会
- 24 ④ 松丘教会訪問
- 25 ④ 亘理教会50周年
- 26 ④ 教区司祭団月例会

188殉教者列福感謝公式巡礼 参加者募集

ベトロ岐部と187殉教者列福1周年を記念して教皇様に列福の感謝を伝え、福者の聖遺物を納めた顕示台を奉納するため、パチカンへの公式巡礼

- A コース「ローマ滞在6日間」11月22日発(同行岡田大司教) 23日発(菊地司教) 24日発(宮原司教)
- B コース「イタリア周遊10日間」22日発(溝部司教) 23日発(押川司教) 24日発(平林神父)
- C コース「ローマ・ポルトガル9日間」23日発(地主司教) 24日発(大塚司教)【問合せ先】 ☎03・6745・7377(株阪急交通社)

「共に集い・語らい・祈る」

カトリック宮城県大会

7月5日(日) 石巻市民会館にて第37回カトリック宮城県大会が行われた。当日は曇天微風で気温も厳しくなく、まさに大会日和であった。

大会には、宮城県内17教会から遠方にも拘わらず約500名の方々が参加され、午前の講演では、宮城県図書館前館長の伊達宗弘氏「写真左」から「支倉常長と宮城のキリシタン」と題して、支倉常長が生きた時代背景や遣欧使節団が辿った苦難の道程を分かりやすく画像を交えて話していただいた。初めて知る事柄も多々あり歴史の深みに触れた思いだった。



今回の大会で目指した「昼食時間を使い交流を深めること」は、会場の関係から思ったような場所が確保出来



深めること」は、会場の関係から思ったような場所が確保出来

最後に大会ミサが平賀徹夫司教と大会参加司祭全員でさざげられ「写真下」、説教で司教様から『私たちは主をたたえるために呼び集められた一つの共同体である』ことを表す大切な役割を担ってここに集っています。共に神の言葉を聴き、その恵み深さを味わい、イエスをほめたえます。今日の福音にあるように、会堂に集まった人々はイエスの語る知恵に満ちた言葉に驚きますが、その驚きは、イエスをほめることにはなくイエスを見下

したつぶやきを交し合うことへとすぐに変わっていきます。『あのイエスは、大工ふぜいにすぎないではないか。偉そうにいつから俺たちに教える立場なのか』と。人を大切にすることがなければ、語らいは成り立ちません。

誰もが偉くなりたいという人間の思いを持つものです。『何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考えなさい』(フィリピ2・3)とあります。これがキリストの力が宿り働いてくださるべき私の弱さなのです。私たちはこのような弱さをこそ誇りましょう。

また、私たちは祈りによって互いに結ばれています。そしてその祈りの中で最高の形の祈りは、共に集い、心を合わせてキリストの奉獻を父である神様に捧げる感謝の祭儀・ミサです。

そのミサを司式するのは司祭ですが、ベネディクト16世教皇様は今年の6月19日から来年の同じ日までの1年間を「司祭年」とすると発表されました。聖ヨハネ・マリア・ピアンネの没後150年にあたってのことですが、仙台教区では司祭の人数が少なくなり、司祭召命の恵みを切に願う必要があるに迫られています。

それにはまず、我々司祭である者がその生き方を見つめ直し、刷新して、みずからあかしとなることができるように、皆様の祈りによる助けと支えとをお願いしたいと思えます」とのお話があり、今年の大会が無事終了した。

松浦悟郎司教 講演会
7月12日(日)、盛岡四ツ家教会に松浦悟郎司教を迎え、社会の中の信徒の役割についての講話と、講演「いのちと平和を守るために、福音と平和憲法」を聞きました。人と人との関わりが分断された現代社会の不幸について改めて考えさせられました。キリストは人を通してのみ現われるというお話。個人的な祈りとどまらず、隣人や社会に目を向けて、人の痛みに共感し、誰にも人間的な営みが実現する社会を求めて、キリストの愛に倣って生きることを信徒の使命と受け止め歩めたらと思えます。一匹の羊も見捨てず、罪人であっても愛



を注ぎ、最終的にはゆるす神。人間には超え難い神の愛ですが、憎しみに憎しみを向ける争いではなく、愛を持ってゆるし、分かち合う社会を築く道が福音の道というお話でした。9条は福音的と言えるようです。(上田吹黄)



こどもたちの夏 サマー・キャンプ

今年の夏は、天候不順で、梅雨明けもなく、すぐに秋風が吹き、夏は東北各地には停車せず、通過して行つたようだ。

そんな中でも、子供たちは元気いっぱい。各地から届けられた教会のサマーキャンプの様子をご紹介します。

今年の夏は、天候不順で、梅雨明けもなく、すぐに秋風が吹き、夏は東北各地には停車せず、通過して行つたようだ。



今年、一本杉の日曜学校キャンプのレポート
8月 日(火)から 日(木)の二泊三日で、一本杉教会と元寺小路教会合同の日曜学校夏期キャンプが行われました。今年のテーマは「ペトロさんを知ろう」でした。班分けは、名の子どもたちをマタイ・マルコ・ルカ・ヨハネの四班に分け班単位で活動しました。場所は「松島自然の家」でしたが、三日間とも天気に恵まれ、暑くもなく寒くもないとても気持ちのよいキャンプとなりました。

海岸で地引網体験写真。大きな魚、小さな魚や蟹、中には横幅が 3mもあるエイまでを収穫。自然の家の方に捌いていただいて、蟹汁やから揚げにしておいしくいただきました。夜はキャンドルサービスをしました。

今年の夏は、天候不順で、梅雨明けもなく、すぐに秋風が吹き、夏は東北各地には停車せず、通過して行つたようだ。

盛岡3教会 合同サマーキャンプ

盛岡地区の四ツ家・志家・上堂の3教会は、7月25日〜26日の2日間、恒例の合同サマーキャンプを雫石町の「道の駅雫石」のキャンプ場で行いました。

神父様を交えてテントの設営、食事作り、レクリエーション。普段見られない子供たちやリーダー、マルコ神父様の一面が表れ、ゆかいなキャン



食作り、レクリエーション。普段見られない子供たちやリーダー、マルコ神父様の一面が表れ、ゆかいなキャン



2日目は、志家教会に戻り、ミサをささげた。ミサの中では、子供たちは皆、真剣に耳を傾けてくれます。イエス様は幼子たちをもっとも大切になさったということを感じ起こさずにはいられません。不思議なことに、天候が優れない三日間でしたが、白石城へのお散歩や花火の時には必ず雨が止むのです。神様の粋なお計らいを感じずにはいられません。白石教会の使用を快諾してくださった小野寺神父様、三日間付きっきりでお手伝いくださった白石教会信徒の皆様、そして、言葉の壁も感じさせず、リーダー以上に汗を流し、子供たちの身近なお兄さんになってくれたダビデ神父様の2人の甥子さんエリック君とマウリシオ君に心からの感謝を述べたいと思います。

(小田中)

塩釜・東仙台合同合宿

8月8日〜10日、東仙台教会と塩釜教会の日曜学校は、白石教会をお借りして、合同で夏期合宿を行いました。16人の子供たちの中には、毎週教会に通っている子供も、信者家庭ではなく、年に一度のキャンプだけが教会の関わりという子供もいます。しかし、特

に分け隔てすることなく、皆でミサに参加し、神様のお話に耳を傾ける、カトリック教会らしいキャンプを心がけました。子供たちは皆、真剣に耳を傾けてくれます。イエス様は幼子たちをもっとも大切になさったということを感じ起こさずにはいられません。不思議なことに、天候が優れない三日間でしたが、白石城へのお散歩や花火の時には必ず雨が止むのです。神様の粋なお計らいを感じずにはいられません。白石教会の使用を快諾してくださった小野寺神父様、三日間付きっきりでお手伝いくださった白石教会信徒の皆様、そして、言葉の壁も感じさせず、リーダー以上に汗を流し、子供たちの身近なお兄さんになってくれたダビデ神父様の2人の甥子さんエリック君とマウリシオ君に心からの感謝を述べたいと思います。

(赤井)

二日目は朝の祈りで始まり、リーダーによる「ペトロさんを知ろう」の企画、ペトロの召命場面をお話と紙芝居で学習しました。その後、自然の家の周りを散策しながら自然の物を見つけるネイチャーゲームを行い、たくさん自然に触れることができました。午後からは



午後からは

三日目も朝の祈りから「ペトロさんを知ろう」、ここではペトロの三度のつまずきと許しの場面を学習し、班ごとに劇でその様子を表しました。そして野外ミサを行い、昼食後に帰途につきました。子どもたちは楽しく学習し、学び、実り多い三日間になったようです。この三日間一緒に行動し、ご指導くださった、エメ、ダビデ両神父様には感謝の心でいっぱいです。(大津智明)

ガールスカウト宮城4回・14回サマーキャンプ

今年のサマーキャンプは仙台市大倉ふるさとセンターで「集まれーガールっ子ーこの夏は大倉のわらすっ子になるう」をテーマに7月30日〜8月2日まで3泊4日で行われた。参加者は、小学1年生から中学1年生スカウトと指導者、計24名。

東仙台教会の聖堂でキャンプ中の安全を祈り、いざ出発。全員テントでの野営生活です。「大倉のわらすっ子」になるため、設営後の夜には古民家で大倉の語り部みっちゃんによる



大倉に伝わるコワイ話を聞いてドキドキ。



翌朝は6時に起き、定義如来まで4キロの早朝ハイキング、朝食は、定義名物定義味噌おにぎりと三角油揚げを食べ、お昼には流しソーメンと、普段家庭では食べられないもので、子供たちも大喜びでした。午後には、豆腐作りを体験し、出来たての豆腐、ゆば、おから、に歓声を上げながら舌つづみ。夜にはドラム缶風呂に入るという初めての体験もしました(写真右)。

翌日は、エコクラフト作り、キャンプファイヤーと盛りだくさんのプログラム。その上、大倉地区の祭りで、地域の人たちがスカウトの前でおみこしを見せて下さいました。

「自分たちでテントを張り、食事を作り、後片付けをするのはとても大変だったけど、とてもよい経験が出来た」と、スカウトたちは満足げに胸を張っていました。

聖堂で感謝の祈りを唱え、各自家路につきました。

(平岡さち子)

各地から

福島県 いわき教会

いわき地区の司祭として50年

モラン神父を東京に訪ねて

7月10日(金)、いわき教会より21名が参加し、朝6時に教会を出発した。11時、渋谷のドミニコ会修道院に到着。3ヶ月振りに会うモラン神父は満面の笑みで迎えてくれた。お元気で、幸せに生活されている様子に皆大いに喜んだ。ガリツ神父の案内で、渋谷教会で祈り、モラン神父と共に東京タワーへ、あいにくの曇り空で富士山までは見えなかった。昼食の後、四谷のイグナチオ教会へ。主任司祭ドメニコ・ヴィタリ神父の講話を聞き、聖歌を歌った。サンプアロ、ドンボスコで買い物



をし、東京カテドラル聖マリア大聖堂へ。パイプオルガンの演奏に迎えられ、聖堂正面の大十字架、十字架形の天井ピエタ像などを観て、フランスのルルドの洞窟を模して作ったというルルドの前で祈り、聖堂の前で記念撮影(写真)。

バスの中で一日の恵みに感謝の祈りを唱え、若き日の思い出の歌を歌いながら夜10時に教会に帰った。(竹内 清)

宮城県 東仙台教会 聖母被昇天祭

宮城県 東仙台教会

聖母被昇天祭

マリア行列夜空に響く

8月15日聖母被昇天の祝日。当日午後6時マリア行列が始まる。高齢者を除きマリア様の御輿を先頭に、参加者全員が提灯と花を手に聖母賛歌「あめのきさき」が声高らかに夜空に響く：神のみははわが望み 今もいつも守り給まえ…。

スperlマン病院(司祭の家へと行進が…、引続きミサ(物故者追悼299名)が行われた。この日のため事前に行った教会

周辺の草刈と前日から準備した婦人部手作りの料理と壮年部の焼き鳥、青年部は子供のたぬき花火を準備。ミサ終了後納涼パーテイが、夜空に花火が打ち上げられ、火の鳥が舞う様に一人が松明を持って踊り出す。夜空に火の輪が幻想的にリズムミカルに踊る見事さに拍手喝采。左手に飲物、右手に料理・焼き鳥をほおぼりながら皆と話す楽しいひと時があららこちらに見受けられる。最後に恒例「七夕踊り」の輪が大きくなつて名残を惜しみながら楽しく終了した。



鳥をほおぼりながら皆と話す楽しいひと時があららこちらに見受けられる。最後に恒例「七夕踊り」の輪が大きくなつて名残を惜しみながら楽しく終了した。

(佐藤定雄)

川端純四郎さん講演会 現在の経済危機とキリスト者の生き方

8月1日(土)、元寺小路教会に於いて、川端氏の講演会が行われた。氏は牧師の子として生を受け、11歳の時に仙台で終戦を迎えた。ドイツ留学の途上、ボンベイで戦争の生んだ極貧の子供たち、更に西独のマルブルクで日本兵に親を殺された中国人と出会い、自らの生き方の方向を見つけた。

新自由主義、米国の覇権主義、また、中国封じ込め政策などが終わろうとしている今日の世界情勢の中に生きる私たちは、すべての人が人間らしく生きることのできる世界に向かうことを願っている。そのためには、現憲法の精神を守り抜くことが大切であり、『人間の平等』はキリスト教(者)の責任である。

「人間は神の前に立つ尊い『個』であり、他者との関係の中で生き、その歴史を背負い生きる存在である。神の国を目指すキリスト者として、政治や経済を学ぶ理由はここにある。」

平和を愛し、反核運動家として熱心に語られた氏の生きざまに、背中をひと押ししていただいたことに心から感謝したい。

(仙台正平協 Sr.佐伯裕子)



東北学院大学講師
世界キリスト協議会
前中央委員
1934年生まれ。

東北大学文学部に学び、博士課程を終え、ドイツのマルブルグ大学に入学。帰国後、東北学院大学教員として、年間勤め、現在も講師として勤務。一貫して平和、人権、政治改革の活動に積極的に関わり、「9条の会」の講師団メンバーとして全国で講演を行っている。

平和を求めミサ

「キリストはわたしたちの平和」

今から 年前の1981年の2月、日から、日まで、時の教皇ヨハネ・パウロ2世は初めて日本を訪問なさいました。わたしも、東京の後楽園球場で教皇ミサに3万5千人の大群衆と共に参加できたときの大きな感動を、今でも決して忘れるこ

とはできません。教皇ヨハネ・パウロ2世は、そのご訪問中の日には、広島を訪れ平和記念公園で全世界に向けて力強い教皇「平和アピール」を、発表なさいました。

「戦争は人間の^{しわざ}の仕業です。戦争は人間の命の破壊です。戦争は死です」と言うお言葉は、そのアピールの中心的なメッセージです。

今年も、仙台教区では、各教会で一斉にこの《平和を求めミサ》をささげました。

最後の晩さんの席上でなされたイエスの告別説教の中では、次のように約束なさっておられます。「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない」と(ヨハネ 14:27)。

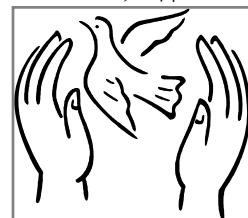
つまり、イエスの全く独自のやり方で平和を実現なさるのです。ですから、この地上に平和を実現させるために働くには、どうしてもイエスのお言葉に従う必要があります。けれども、今日の世界の現状では、イエスのお言葉は全く

無視され、ひたすら「弱肉強食」と「力の論理」によって事を解決しようとしています。

神は、キリストを通してわたしたちをご自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。

パウロは次のように教えています。「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、ご自分の肉において敵意という隔ての

壁を取り壊し十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです」と(エフエソ 2:14-18)。(佐々木博神父 平和ミサ説教より)



私たちキリスト者にとって環境問題とは何か

創世記は、創造された世界すべてを神は見て「しとされた」というメッセージで始まり、人間の創造に際しては「生めよ、増えよ、地に満ちよ」、「すべてのものをあなたたちにゆだねる」と書かれています。つまり、この世界すべてを管理する責任が人間に与えられたこととなります。しかしながら、大規模な環境破壊が続いており、与えられた管理の責任を果たしているとは言えません。

教皇ヨハネ・パウロ二世は1990年「世界平和メッセージ」で、次のように呼びかけています。

- ・環境問題にとって重要なのは 理的 価値であり、これはまた、平和な社会の発 生の土台でもあります。
- ・全被造物との平和は、人間同士の平和と切り離すことはできません。
- ・自然と被造物に対する義務は、私たちの信仰の本 質的な部分です。つまり、キリスト者たちにとって、環 境問題は付け足しの課題ではなく、平和問題とも結びついて私たちの信仰の本 質につながるものであると教皇は述べておられます。そして、創造された世界の ために、次の世代のために保つという厳 格な責任があることを強 げられておられます。(岡 光)

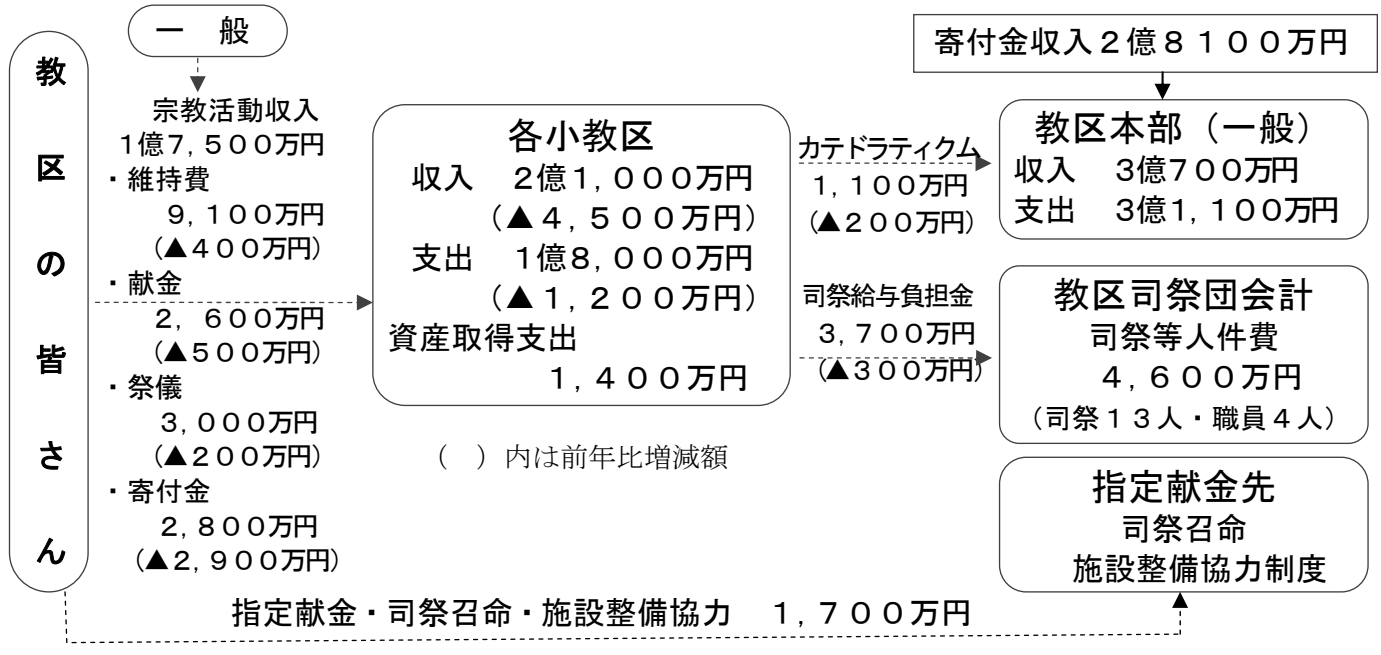
地球を大切にする会



仙台教区 2008年度 決算概況

(2008. 4. 1～2009. 3. 31)
仙台教区の財政的な交わり

主な収入・支出の流れ (カトリック仙台司教区)



カトリック仙台教区 2008年度決算概要 —その1—

◇ 仙台教区の財政的な交わり

仙台教区の財政を支えているのは信徒の皆さんです。毎月納めてくださる教会維持費、ミサ献金、意向ミサ謝礼等の祭儀収入が小教区の収入のほとんどを占めております。

小教区は、その収入の中から教区本部の運営資金としての「カテドラティクム」や、教区司祭の生活を支える「司祭給負担金」や、「施設整備協力金」を負担し、財政面においても教区全体がひとつの交わりをもっています。この状況を金額を入れて示したのが上の図です。

○小教区の収支 (2008.4. 1～2009.3. 31)
(単位 千円)

収入の部		支出の部	
1.宗教活動収入	175,148	1.宗教活動支出	33,399
教会維持費	(90,744)	2.指定献金支出	16,962
献金収入	(26,718)	3.事務運営費	63,594
祭儀収入	(29,821)	光熱水費	(17,591)
寄付金収入	(27,864)	保守修繕費	(17,059)
2.指定献金収入	16,962	4.人件費	8,622
3.補助金収入	2,964	司祭給与	(2,590)
4.他部門繰入収入	1,190	5.他部門繰入支出	54,781
5.その他の収入	13,664	カテドラティクム支出	(11,170)
施設設備利用	(4,953)	司祭給負担金	(36,643)
6.財務収入	15,280	6.その他の支出	2,384
		7.財務支出	62,450
前年度繰越支払資金	170,731	次年度繰越支払資金	153,747
合計	395,939	合計	395,939

上記は青森県、岩手県、宮城県、福島県の小教区教会(ドミニコ会所属教会を除く)の収支報告書を合計したものです。2007年度と比較して増減額や特徴的な点をコメントします。

「収入の部」=1.「宗教活動収入」では約4,000万円の減少となりました。

教会を支える根幹的収入源の「教会維持費」で400万円の減、更に「献金収入」で500万円の減少をみました。2007年度特定教会で大口径寄付があった「寄付金」は例年並みに戻って約2,900万円の減少となりました。

2.指定特別献金も各項目で減少がみられ約400万円減少しました。

「支出の部」=1.「宗教活動支出」は700万円の増加がみられました。

角田教会の建替え支出が会計処理上寄付金に計上されたこと、勘定科目見直しで計上される科目が変更された影響も一部あり、宣教司牧費で400万ほどの増がみられました。

3.「事務運営費」は約600万円減少しています。「人件費」では400万円の減少、「教区内繰入支出」で500万円減少(2007年度喜多方教会建設費が含まれている)しました。

<小教区の会計担当の皆さま>

2008年度は勘定科目の変更等で決算報告書の作成に大変ご苦労を頂きました。

誠に有り難うございました。これからも一層分かりやすい決算書になるように努力して参りましょう。

作成上で疑問・質問・異論等ありましたら、本部事務局へ電話・ファックスをお願いします。(次頁へつづく)

○教区本部会計の収支 (2008.4. 1~2009.3. 31)
(単位 千円)

なる。昨年喜多方教会建築等で特別な資金収支があったが、今年度は平常にもどった。

「支出の部」 = 1. 「事務運営費支出」は200万円の増加がみられた。

2. 「人件費」は司祭が2名から3名になったが、前年計上あった退職金がなくなり、約200万円の減少となった。

3. 「他部門繰入金支出」はベトレヘム会よりの寄付金の使途を明確にするために、一時別途会計で管理します。

*前年に引き続き カトリック仙台司教区の2008年度会計報告を数回に分けて報告して参ります。

今年も7月に教区会計名で、教区本部・司祭召命活動・施設整備協力制度・海外宣教基金、各会計の決算報告書、カテドラティクム・司祭給負担金の明細等を小教区に送っております。

是非、掲示板等に掲示して信徒の皆さまの目に触れるようご配慮願います。

(教区会計補佐 小守林)

収入の部		支出の部	
カテドラティクム収入	13,496	宗教活動支出	4,208
祭儀収入	1,500	宣教司牧費	(4,174)
寄付金収入	280,911	事務運営費	10,394
受取利息	415	人件費	15,777
その他の収入	6,591	司祭給与	(8,655)
他部門繰入金収入	4,112	他部門繰入金支出	281,012
經常収入合計	307,025	經常支出合計	311,391

カテドラティクム収入にはドミニコ会7教会および修道院分も含まれています。

2007年度と比較して増減額や特徴的な点をコメントします。

「収入の部」 = 1. 「カテドラティクム収入」では約200万円の減少となりました。小教区からの送金額減少による、一部年度を越えての送金となり、年度内に合算されない部分もあります。

2. 「寄付金収入」では2億2,300万円増加となった。ベトレヘム会よりの寄付金が主たるものである。

3. 「他部門繰入金収入」は前年比1,700万円の減少と

【告知板】

◇元食男子集まれ

元食男子 元気で
よく食べる男子

日時 9月21日

13時集合

22日14時解散

集合・解散場所は元寺小路教会

場所 カトリック白石教会

対象 小学校6年生より30歳までの男子

持ち物 宿泊するためのもの、聖書、米2合

参加費 1,000円

9月15日 教区事務所小松神父

TEL 022-2222-7371

FAX 022-2222-7378

◇仙台病障連研修会

「心の病と治療の現状」

日時 2009年10月18日(日)

11時~14時30分

場所 元寺小路教会

講師 カトリック医師会仙台支部

仙台青葉(せいよう)学院短期大学講師

赤井 聖子氏

主催 カトリック仙台司教区

病者障がい者団体連合

連絡先 榎野 君子 会長 大島 喜四郎

三田 英子 227-7709

◇講演会

テーマ 「いのちをみつめて」(仮題)

日時 2009年11月14日(土)

14時~16時

場所 元寺小路教会大聖堂

講師 大石 邦子氏



【新刊案内】

司祭年に聖ビアンネを知ろう!

今回は、ビアンネに関する2冊の本を、紹介したいと思います。

新刊は、『聖ヨハネ・マリア・ヴィアンネ その生涯と祈り』

著者 いくしみセンター編集部/発行 いくしみセンター/定価 1200円+税

既刊は、『聖ヴィアンネの精神 公教要理・説教・会話 著者 モンナン神父/訳者 久保 守/発行 聖母の騎士社/定価 500円+税+写真上』

この2冊の本のタイトルからもおわかりいただける

とおり、新刊のほうは、聖ヴィアンネについて、その生涯もくわしいこともよくわからない、とおっしゃるかた

にお勧めしたいものです。

本書には、ヴィアンネの生家 アルスの教会、告解室

など写真が付けられています。内容は、簡単な生涯と

聖ヴィアンネの生き方の紹介の後、第2部に、教皇ヨハ

ネ・パウロ2世が、司祭たちに聖ヴィアンネに倣って生

きるようにと、1986年の聖末曜日(亡き世界の司祭た

ちに宛てた書簡の全文が掲載されています。第3部とし

て、聖ヴィアンネがなされた祈りと、聖ヨハネ・マリア・

ヴィアンネへのノヴェナが載せられています。

また、既刊のものは、今回再版される際、大幅に言葉

や文字遣いに手が入っているため、読後感には、ヴィアン

ネに出会った感じを与えます。ヴィアンネのもとで助任

司祭を務めたモンナン神父が書き取ったヴィアンネ神

父の公教要理の勉強会の内容と、ミサの説教と会話の内

容が第1部から3部に分けて書かれています。各部の初

めに、モンナン神父の受けたヴィアンネ像が語られてい

ます。

ヴィアンネ神父がアルスで活躍したのは、1818年

から1959年に亡くなるまでの約40年間のお

話からです。読んでいて、内容としては、第2パチ

カン公議以前に活躍なさった神父様方のお話を伺っ

ているような錯覚を覚えるほどです。